



滝田医院ニュース

022-0001 岩手県大船渡市末崎町字細浦77番地 滝田医院
電話0192(29)3108 内科・循環器科・消化器科・呼吸器科・リハビリテーション科
日本循環器学会認定循環器専門医

第5号

発行日 2004(平成16)年12月21日

今年もご支援ありがとうございました。

目次:

年末のご挨拶	1面
ワーファリンと納豆	1面
あたたかい湿布のすすめ	2面
講演会 報告	2面
他人の迷惑とは?	2面

あっという間に年の瀬を迎えました。当医院も多忙な中にも、来院して下さる患者さんや支えてくれるスタッフのおかげで無事に年を越せそうです。来年は、4月で早くも開業2周年を迎えます。患者さんの数が増えてますます忙しくなっても、患者さんの訴えに耳を傾けて、より正確な診断と、より効果的な治療を提供するように、心がけて行きたいと思っています。また、嫌な事件が相次いで起こり、殺伐とした世相ですが、そういう世の中であるほど医院には安らぎが必要だと思います。大病院では得られない安らぎを提供することも大

事なことだと考えています。

来年も皆さんのご支援をよろしく願います。

また地域医療は当院のみで成り立つものではありません。医師会活動や行政、介護・福祉分野との連携も大切です。さらに的確な診療レベルを維持するため学会等の出席も必要です。来年も臨時休診が何回かあるかも知れませんが、このような事情ですのでご理解下さい。必ずや患者さんの診療に還元できるものと思っています。(滝田)

年末年始の診療

年末は

12月29日(水曜日)

昼12時まで

年始は

1月4日(火曜日)

朝8時半から

クスリをめぐる誤解

「心臓の患者さんは、納豆を食べてはいけない???!」

というのは**まちが**いです。むしろ納豆は血液の循環を良くしてくれる食品です。ではなぜこういう誤解がうまれるのでしょうか?

心臓や脳に病気をもつ患者さんの中には「ワーファリン」というクスリを服用している場合があります。心筋梗塞や脳梗塞の新規発症や再発を予防してくれる大変良いお薬です。しか

し納豆に含まれるビタミンKという物質がこの「ワーファリン」の働きを妨害するのです。つまり納豆を食べると、せっかく飲んでいる「ワーファリン」の効き目が弱くなるのです。したがって、「ワーファリンを飲んでいる患者さんは納豆を食べられない。」と言うのが正解です。

あたたかい湿布はいかがですか？

頸、肩、腰、ひざなどの痛みに湿布を使っている患者さんは多いと思います。暖かい気候のうちは湿布を貼ると、冷たくて気持ちがいいのですが、寒くなってくると、冷やすことに違和感を覚える患者さんもいらっしゃることでしょ。そんなときは温湿布(おんしつぷ:暖かい湿布)がお勧めです。温湿布は冷湿布(れいしつぷ:ふつうの冷たい湿布)と同様に水分を含んでいますので、貼ったときはひんやりしますが、時間がたつと血行を良くして暖かくなってきます。なお温湿布は入浴一時間前には剥がし、入浴後30分以上経ってから貼りなおすようにしまし。お

湯に有効成分が溶け出して、湿布の効果がなくなってしまうからです。以上は、湿布の中でも厚手のいわゆる「パップ剤」の話です。湿布にはもうひとつ「プラスター剤」という薄手で、密着性の高い種類があります。プラスター剤は表面に水分を含まないのでパップ剤の冷湿布ほどひんやりしません。寒くなって「今までの冷湿布ではどうもなあ」という患者さんはパップ剤の温湿布かプラスター剤に変えてみるとよいかもかもしれません。ただし急性の痛みや冷やしたほうが気持ちがいい場合は冷湿布が最も効きます。医師にご相談下さい



生活習慣病予防講演会 開催される。

去る11月24日大船渡市の健康教育事業の一環として「生活習慣病予防講演会」が、ふるさとセンターで開催されました。当日は当院の医師が「高脂血症の予防について」という内容でお話をさせていただきました。会場では当院の患者さんもだいぶお見受けしました。

「高脂血症」は血液中のコレステロールや中性脂肪が高くなる病気で

す。心筋梗塞や脳梗塞などの原因となりますので薬物での治療が必要な場合があります。適度な運動と食事療法も必要です。

なお来年1月26日には「虚血性心疾患(心筋梗塞など)の予防について」と題して市保健センターで講演させていただきます。詳しくは保健センターにお問い合わせ下さい。



雪沢を訪ねて
(陸前高田市)

気をつけましょう。誰かに迷惑をかけていませんか？

クルマでの来院時にご注意下さい。

開業以来、駐車場内での物損事故が少なくとも4件おきています。幸いにして人身事故はありませんが体の弱ったお年寄りや、動きの予測できないお子さんも通ります。運転される方は十分ご注意下さい。また急発進や急停車も避けましよう。また4件中1件はほかの患者さんのクルマとの接触事故でしたが、ぶつけた方は名乗らないままなので、ぶつけられた患者さんは大変迷惑していま

す。万が一、駐車中のクルマと接触した場合は速やかに、受付に申し出てください。

子どもさんは待合室ではお静かに！

それぞれのご家庭での教育方針はあると思いますが、待合室でほかの患者さんの迷惑になるような行為(奇声をあげる、走り回るなど)は、ご家族がやめさせてください。周りの患者さんへのやさしい心配りをお願いします。